



# ADRC Highlights

Asian Disaster Reduction Center Monthly News

Vol. 373  
April  
2024

## トピックス

### メンバー国との協力推進

能登半島地震被災地の視察

### ADRC客員研究員レポート

¶ チャンダル・カント  
(インド)

¶ ブー・トゥイ・ズオン  
(ベトナム)

### 関係機関との協力推進

JICA国別研修マレーシア  
「LEP2.0災害リスク管理  
能力強化」(洪水対策)

## Asian Disaster Reduction Center アジア防災センター

〒651-0073  
神戸市中央区脇浜海岸通  
1-5-2 東館5F

Tel: 078-262-5540  
Fax: 078-262-5546  
editor@adrc.asia  
<https://www.adrc.asia>

© ADRC 2024

## ●メンバー国との協力推進

### 能登半島地震被災地の視察

2024年1月1日に発生した能登半島地震を受け、アジア防災センター(ADRC)は地震概要と被害や対応の概要について国や自治体による公式発表情報を英語でまとめた報告書を2月末まで更新していました

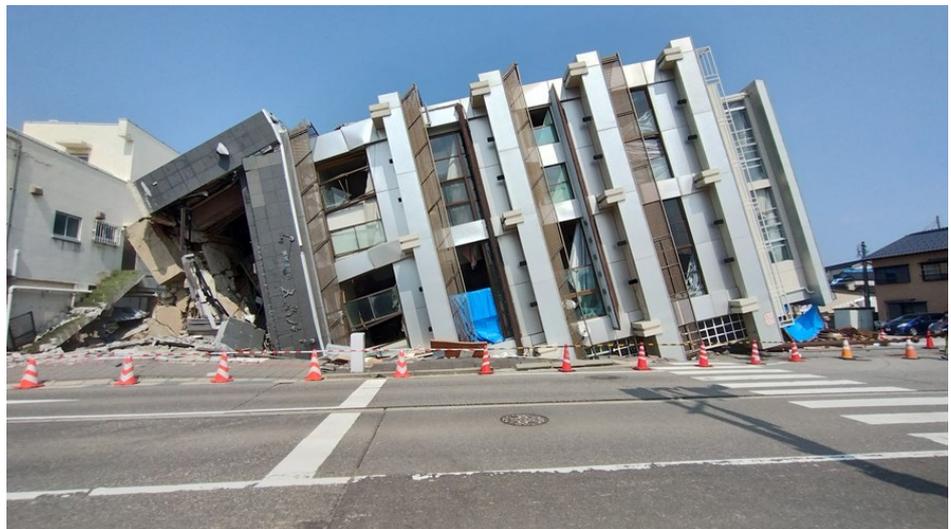
([https://www.adrc.asia/publications/disaster\\_report/index.php](https://www.adrc.asia/publications/disaster_report/index.php))。

そして地震発生から2か月半後の3月14-15日にADRC研究員と外国人客員研究員が能登半島を訪問し、地震と津波による被害を視察し、現在進行中の復興活動とその課題について検討を行いました。

避難、救援救助、復旧支援などの要となる道路については、動脈となる「のと里山海道」で重点的に復旧作業が進められていました。山間部を中心に土砂崩れで道路が被災している箇所が多々あり、1車線だけ仮復旧して通行していました。路面の損傷箇所は無数にあり、斜面も土のう積みの仮復旧状態であり、本格復旧には相当な時間がかかると思われました。また、関西、関東、東北、北海道など他都道府県警察が交通整理等の支援活動をしていました。

輪島市や珠洲市など被災中心域では多くの伝統的木造住宅が倒壊していました。瓦屋根の木造住宅は外国人客員研究員にとって身近な建築様式ではないのですが、重い瓦屋根が被害を大きくした原因であり、このような伝統的の家屋の耐震性の強化促進策について意見が交わされました。

輪島市では延焼火災が発生した朝市通りや7階建てのビルの倒壊現場を視察しました。木造家屋密集地の災害対策や地震・津波発生時の消火対策など、多くの課題が突き付けられています。外国人客員研究員からは、2001年インドグジャラート地震との比較など、各国の建物やまちづくりとの比較もなされました。



鉄筋コンクリート造7階建てビルの倒壊(輪島市)

地盤液状化が発生した各地ではマンホールが浮上がり電柱が傾斜してい

## 続き

ました。更に、震源域から100km以上離れた内灘町では多くの住宅が傾斜するなどの被害も見られました。

この他、地盤隆起により使用不能となった輪島市の漁港や、珠洲市の津波被災状況を視察するとともに、家屋の応急危険度判定の紙（緑、黄、赤）、給水車や炊き出し、応急診察所、仮設住宅建設状況など、復旧支援活動も視察し、今後の各国の地震防災対策について知見を得ました。

## ●ADRC客員研究員レポート

### チャンダル・カント（インド）

私はインドから来ました、ウッタル・プラデーシュ州の州災害管理委員会で洪水対策のプロジェクト・エキスパートを務めてるチャンダル・カントと申します。今回、ADRCの客員研究員プログラムに参加できることを光栄に思います。私は災害管理の修士号と機械工学の学士号を持っており、災害管理の分野で豊富な経験を積んできました。インドにおいては、これまでのキャリアを通じて、以下のような様々なプロジェクトで重要な役割を果たしてきました。



- 州レベルでの統合警報ポータル運用開始
- 州レベルでの洪水発生報告と準備活動の指導
- 統合型の州緊急オペレーションセンターの設立
- 事故報告のための「RAHATアプリ」の開発
- COVID-19 に対する対応調整
- 2021年氷河湖決壊（GLOF）における州代表としての救助および救援活動の調整

特に、事故報告のための「RAHATアプリ」の開発に積極的に携わってきました。また、インド政府の災害対応チームの一員として、洪水の被害を受けた地区で視察を行いました。

インドの特徴としては、地理的気候や社会経済的条件が多様なため、洪水、干ばつ、サイクロン、地震、地すべり、雪崩、森林火災など、さまざまな自然災害や人的災害の影響を受けやすくなっています。近年では、風水害の頻度と激しさが増すとともに、事故のような人為的災害も増加しているため、災害リスクの軽減と管理が急務となっています。

一方、日本もその地理的および地形的特徴から、台風、集中豪雨、地震、火山噴火、津波などの自然災害に頻繁に見舞われています。日本は、災害管理システム、国土保全、気象予測技術、災害情報伝達システムの開発などで大きな進歩を遂げてきました。日本における災害被害の軽減は、社会としての対応と脆弱性を緩和する能力の証であると言えます。

日本滞在中は、日本の災害管理システム、特に都市計画とインフラ整備などについて学びたいと思っています。このプログラムを通じて得た知識や経験は、インド帰国後にも応用できると確信しています。客員研究員プログラムに参加する機会を与えてくださったADRCとインド政府に深く感謝します。

### ブー・トゥイ・ズオン（ベトナム）

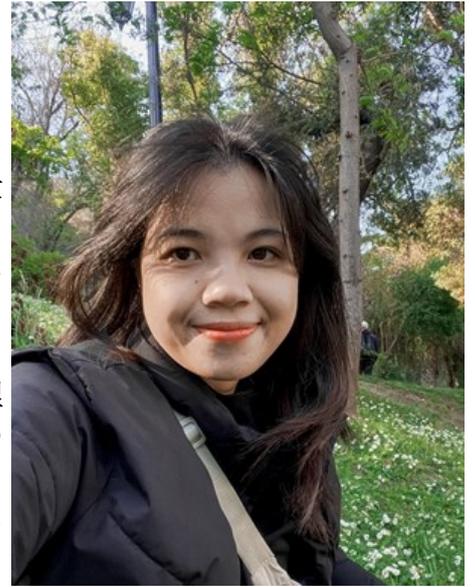
私はベトナムから来ました、ブー・トゥイ・ズオンと申します。ベトナムの農業農村開発省堤防管理・防災局（VDDMA）の職員です。

## 続き

私の責務は、VDDMAの職員として、ベトナムと世界の災害リスク、及び災害事象に関する情報を広めることです。例えば、VDDMAのウェブサイトやSNSなどを通じて、災害時の状況報告や、各種災害統計データなど、タイムリーな情報を発信しています。特に、2020年にベトナム中部で発生した大災害では、VDDMAは世界の国際機関から、復興活動などを目的に2,500万米ドルという支援を頂きました。それに対して、VDDMAは各メディアを通じて、国際的なパートナーから提供された支援について感謝の意を表しました。

今回、ADRC客員研究員プログラムに参加したことで、災害管理システムや災害と闘う日本国民の揺るぎないコミットメントについて、貴重な知見を得ることができています。特に、私が滞在中に積極的に参加した防災意識向上を目的としたイベントを通じて、地域社会が災害リスク軽減に取り組んでいることがとてもよく理解できました。これらの経験は私の知識を豊かにし、ここで学んだ教訓を帰国後のベトナムでの仕事に活かしていきたいと思っています。

最後に、このような貴重な学びの機会を与えてくださったADRCとVDDMAに心から感謝の意を表します。また、私を支え、日本での時間を本当に思い出深いものにしてくれたADRCの同僚や2023年の客員研究員の仲間たちにも感謝の意を表します。



## ●関係機関との協力推進

### JICA国別研修マレーシア「LEP2.0災害リスク管理能力強化」（洪水対策）

ADRCは、2024年2月26日から3月8日にわたり、JICA国別研修マレーシア「LEP2.0災害リスク管理能力強化」（洪水対策）を実施しました。本研修では洪水対策をテーマとし、日本の都市部を流れる河川を中心に、河川の計画論と関連施策を含めたその実践の状況についての理解を深め、マレーシアにおける洪水対策事業の改善や防災投資の更なる加速に向けたアクションプランを検討することを目的としています。マレーシア国家防災機関、関係機関を中心に15名が参加し、日本における都市部洪水対策の実例について講義、視察を通じ、日本の洪水対策の背景、政策等について学びました。研修実施にあたり、ご協力いただいた関係機関の皆様に厚く御礼申し上げます。



新羽末広幹線視察（横浜市）

## 問い合わせ・配信申し込み

このニュースレターに対するお問い合わせ、またEメールによる配信をご希望の方は [editor@adrc.asia](mailto:editor@adrc.asia) までEメールをお寄せください。